

事務事業評価表

平成14年度	主要事業計画対象の有無	有	電話	042(769)8236
担当部課名	経済部	商業観光	課	ふるさと観光係
事務事業名	新磯地区複合施設整備事業		事業コード	35210

1 総合計画における位置づけ

政策名	第5章	輝き魅力あるまちづくりを進めます	事業開始年度
基本施策名	第2節	観光の振興と余暇対策の推進	10
施策名	第1施策	魅力ある観光資源の整備と情報発信	年度

2 実施根拠及び関連法令等

(仮称)大凧文化資料館：地方自治法、新磯ふれあいセンター：ふれあいセンター条例、こどもセンター：こどもセンター条例

3 事業概要

(1) 事業の目的	(2) 対象(誰、何)
相模の大凧文化の保存・継承等を図るための「(仮称)大凧文化資料館」、高齢者の交流や健康増進などの活動への支援を図るための「ふれあいセンター」及び地域の青少年健全育成活動のより一層の充実に資するための「こどもセンター」を複合施設として新磯地区に整備する。	市民一般
	対象数 611千人
(3) 平成13年度事業の内容	(4) 総合計画・実施計画における概要
新磯地区複合施設については、平成11年度に「ふれあいセンター」を整備し、平成13・14年度に第2期工区として「(仮称)大凧文化資料館」と「こどもセンター」の整備を行う。なお、開館は平成15年4月の予定である。 ○平成13年度の事業内容は次のとおりである。 ・実施設計業務委託 9,345千円 ・複合施設建設準備委員会の開催 4回 ・(仮称)大凧文化資料館展示設計検討会の開催 4回 (アドバイザー謝礼 180千円) ・こどもセンター建設委員会 4回	・「大凧資料館の整備計画の推進」 ・「交流の場の整備」 ふれあいセンターの開館 (新磯地区) ・「こどもセンターの計画的な整備」
	(5) 個別計画の概要
	計画名 相模原市観光振興計画
	計画年次 14年度～18年度
	「伝統行事等の保存・継承及びふれあいの機会の充実」大凧資料館の整備が掲載

4 評価指標

指標名	実施設計進捗率		
指標式	実施 / 予定 × 100		
指標設定の意図	建設工事実施設計の進捗状況を把握できる指標として設定した。		

5 目標と実績

〔金額単位：千円〕

	平成11年度	平成12年度	平成13年度(評価対象年度)		平成14年度
	実績	実績	実績	目標	目標
指標			a 100	b 100	
指標			c	d	
指標			e	f	
事業費	決算(予算)額		9,692	9,692	479,989
	人員・時間数		1.3人	1.3人	2人
	人件費		10,946	10,946	16,840
	その他経費				
	合計	0	20,638	20,638	496,829
特定財源			0	0	388,800

6 個別評価

(1)達成度…目標をどれだけ達成したか			
評価 A ▼	A : 達成している (100%)	= 、 、 の平均値 = 100.0%	
	B : 一部達成していない(100%> 80%)		
	C : 達成していない (80%>)		
$\frac{a}{b} \times 100 = 100.0\%$	$\frac{c}{d} \times 100 =$	$\frac{e}{f} \times 100 =$	
理由 :	平成13年度は、第2期工区建設工事の実施設計であるが、年度内に実施設計が出来あがり目標は達成できた。なお、実施設計には、複合施設建設準備委員会等の意見を充分反映させているものである。		

(2)必要性…時代変化に適応した事業内容か			
評価 A ▼	A : 適応している	理由 :	新磯地区複合施設【(仮称)大凧文化資料館、ふれあいセンター】は、新世紀さがみはらプラン実施計画の地域別計画において新磯地区の重点施策として位置付けられている。
	B : 一部適応していない		
	C : 適応していない		

(3)経済性・効率性…費用対効果は妥当か			
評価 A ▼	A : 妥当である	理由 :	新磯地区複合施設に関する経費は、担当職員1.3名分の人件費と大凧室内展示実施設計アドバイザー謝礼を除くと実施設計業務委託料のみであるため、経済性・効率性は高いといえる。
	B : 一部妥当でない		
	C : 妥当でない		

(4)事業の代替性…県、民間との役割分担のあり方から見て、市が実施していくことが適切か			
評価 A ▼	A : 代替の可能性ない	理由 :	公の施設であるため、市が実施することが適切である。
	B : 代替の可能性低い		
	C : 代替の可能性高い		

(5)市民満足度…対象市民の満足は得られているか			
評価 B ▼	A : 満足できる	理由 :	現在、新磯地区複合施設は「ふれあいセンター」のみ開館している。今後、第2期工区の整備【(仮称)大凧文化資料館、こどもセンター】を行い、供用開始したときには市民の満足が得られるものである。
	B : 一部満足できない		
	C : 満足できない		

(6)有効性…当該事業は上位の施策を実現する上で有効か			
評価 A ▼	A : 有効である	理由 :	平成15年4月開館を目的に整備を進める上で、建設工事実施設計は必要不可欠なものである。
	B : 一部有効である		
	C : 有効でない		

<p>評価バランスチャート</p>	<p>成果向上の余地</p> <input type="checkbox"/> ある <input checked="" type="checkbox"/> ない		<p>説明 :</p> 事業は順調に予定どおり進捗している。
	<p>コスト改善余地</p> <input type="checkbox"/> ある <input checked="" type="checkbox"/> ない		<p>説明 :</p> 事業費のうち職員の人件費以外は実施設計業務委託料であるため、改善の余地はない。

7 総合評価

評価	AA ▼	他自治体の類似事業との比較	
今後の進め方		説明	平成15年4月開館を目的に整備を進めるものであり、平成13年度は建設工事の実施設計を行い、事業の進捗については計画どおりに進んでいる。
<input checked="" type="checkbox"/>	継続		
<input type="checkbox"/>	見直し		
<input type="checkbox"/>	廃止		
<input type="checkbox"/>	完了		

8 二次評価における変更点

--